

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4170500039
法人名	社会福祉法人 伊万里敬愛会
事業所名	グループホーム椎の木の家
訪問調査日	平成20年2月28日
評価確定日	平成20年3月26日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170500039
法人名	社会福祉法人 伊万里敬愛会
事業所名	グループホーム椎の木の家
所在地	佐賀県伊万里市黒川町小黒川145番地1 (電 話) 0955-27-0113

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年2月28日	評価確定日	平成20年3月26日

【情報提供票より】(20年1月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 10年 1月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	8 人	常勤	4 人, 非常勤	4人, 常勤換算 8 人

(2)建物概要

建物構造	木造瓦葺き二階建て 2階建ての1階～2階部分
------	---------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	8,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食 200 円 夕食 400 円	昼食 300 円 おやつ 0 円	

(4)利用者の概要(平成20年1月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	82 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 二期会 小島病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家改修型で格子戸を開けて入る日本家屋の落ち着いた佇まいである。周りには鯉の泳ぐ池や桜・ツツジ・藤の花が植えられた美しい公園が目の前にある。生活に必要な病院・銀行・郵便局・商店などがすぐ近くに揃っており、生活感のある場所である。開設して11年目になるグループホームで入居平均年齢も高く、入居者の体力に合わせた楽しみ事や、レクリエーションなどの個人対応に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善点を職員間で話し合い前向きに取り組んでいる。施設については利用者の行動などを把握し、日中において施設しないケアに改善された。職員全員が同じものを一緒に食べる事については運営面からの取り組みも必要で、今できる範囲の取り組みからより質の高いものにすることが期待される。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の評価を確認し、日常のケアやホーム内の環境などを見直す機会となった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域の情報を確実に知ることが出来、日常の生活の中に行事などを取りいれている。また情報を発信するが十分に伝わらないことを受け止め、少しでも多くの人に伝える取り組みも期待される。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員と家族の間がより近いことが望ましく、常に話が出来関係が出来ている。家族の思いを引き出し受け止め、ケアの向上へ繋げている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域に協力をして貰うだけでなく、地域に役立ち必要とされるホームであるためにも双方の関係性を重視した地域との一層の関わりを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所を開設したときから地域の中で普通に生活することを理念に置き、地域生活の継続を支えるための支援が実践されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝理念を唱和することからスタートし、管理者が理念を理解した上でそれを利用者との関わりの中でも職員に伝えている。職員も理念を理解し日常のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し運営推進会議などで地域行事などの情報を集め、出来ることで参加をしている。またホームの行事に声かけをし交流を心がけている。日常も野菜を頂いたり事業所で作ったお惣菜やおやつなどを食べて貰ったりと、近所つき合いが自然なかたちで行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の目的や意義を職員全員が理解し、改善点についても皆で話し合い前向きに取り組んでいる。運営者の理解も得て外部評価の結果も活かした改善への取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や地域からの参加もあり、多方面からの情報収集の効果的な会議となっている。また地域の方々にホームに関することや認知症についてなどの情報発信をして、情報がどのくらい浸透しているか理解されているかを知ることが出来る。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の事業に人材を派遣したり、常に協力する体制がある。運営者自ら会議などにも参加し、関係をより深いものになっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には必ず利用者の健康状態や、日常の様子を話している。行事などは出来るだけ参加して貰えるよう声かけを広げる工夫がみられる。実際に見ていただくことで家族と職員の信頼関係に繋がっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族がホームを訪れた機会に、いろいろな話の中から要望などを引き出している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が利用者に与える影響を配慮し、最低限の異動に抑えている。職員の性格などを考慮し、ホームにあった人材を配置している。家族には家族会の総会で紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員が積極的に研修に参加できるよう配慮がされている。研修で得た知識など日常のケアの中でも、職員間で伝え合う事が実践されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や運営者は他のホームを訪問したり、研修に出かけ質の向上に活かしている。職員もまた他のホームを知る機会ができれば、自分たちの出来ていることや足りないことを確認し今以上の質の向上が期待できる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居なども出来、少しずつ馴染みながら入居へつなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の行動などの情報を職員間で共有し、本人を知ることができている。またそれぞれの行動に意味があることを理解し、一緒に喜んだり悲しんだり家族のように思い合う関係が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に寄り添う時間をもつようにし、自然に引き出す事を意識している。表情や言葉の端々を捉えたり、常に意向を逃さないよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	普通に生活することを目標に置き、職員全員の意見を採り入れ介護計画が立てられている。家族とも話をし、共有している。特別なことでなく利用者中心の、自然体で出来る計画である。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の変化を見逃さないでその都度職員間で話し合い、様子を見ながら家族にも報告し検討している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の送迎を職員で行ったり、利用者のリハビリの必要に応じて職員が知識を得ながら日常での対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医を基本に、家族に確認して、通院を職員が支援し報告もされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望などを聞き、医療行為を要しない限りホームでの対応を目指している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を知ることで、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何でも皆が一緒に行うのではなく、利用者それぞれの好きなこと・したいこと・参加できることを引き出したり、見つけだす配慮に日々取り組んでいる。また食事時間など利用者それぞれのペースで支援されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に、買い物や食事の準備などを行っている。皆で一つの大きな食卓を囲んでゆっくり食事をしている。職員一人は同じものを食べて、味の確認などをしている。	○	食事は職員の一人が利用者と一緒に同じものを食べているが利用者と職員が全員で同じ食卓を囲み同じものを楽しく食べる事が出来るような検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が楽しんで入浴して貰う為に、一人ひとり対応を考えながら支援を行っている。入りたくない人を定期的にすすめるのではなく、清拭で対応したりしている。入りたい気持ちになるよう誘導がスムーズに行われ、本人の意思が優先されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日お化粧をして身だしなみを整える方もいる。洗濯物を干したり畳んだり、気候がよいときには、畑の様子を見に行くこともある。リビングで歌を歌ったり、お縁から花見を楽しんだりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	計画を立てて出かけることもあるが、お天気や利用者の状態で急遽ドライブや、お弁当を持って出かけている。またドライブを兼ね馴染みのところへ出かけることもある。特養のデイサービスのイベントに合わせて、参加したりもしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けずに利用者が安全に生活できる事を確認して、施錠の時間を配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力は勿論だが消防団や地域の方も参加いただいて、避難訓練や消防訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行い、地域の意見や協力が得られている。訓練後は地域の方々にホーム内の見学をしてもらい、避難経路の確認にも繋げている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の中に栄養士が居ることで、日常的にバランスの良い食事の配慮がされている。水分が不足しないよう一日の流れの中でお茶が出されたり、また好みにミルクなどが提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の殆どの部屋から公園と池が目に入り、ホームに居ながらにして四季の花見が楽しめる環境である。リビングは飾り立てたところが無く落ち着いた空間で、利用者が思い思いに過ごせるスペースがあり、炬燵やソファや椅子と自由に選べる工夫がされている。庭には犬が飼われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室での転倒を防いだり、車椅子利用者への配慮も見られる。花の好きな方は花や写真が飾られたり、居室自体がそれぞれ違い床の間が付いていたりでより個性が感じられる。		